

種名	<u>クロサンショウウオ</u> <u>Hynobius nigrescens</u> 
分類	有尾目サンショウウオ科サンショウウオ属
俗称	
形態的な特徴	体長は、120～190 mm。黒っぽいものが多いが、灰褐色をした個体も見られる。うっすら斑紋が入る個体もいるが、一見して全身は黒の単色に見える。
分布	本州(東北、北関東、北陸、佐渡島)に分布する。
繁殖行動	繁殖期は 2～7 月で、生息地の雪解けと一致する。この時期は昼間に産卵場所の水辺へ移動している個体を見かけることもある。雪の上を歩いていて凍えてしまい、動けなくなってしまうものもいる。繁殖場所にはオスが先に集まり、メスの到着を待ち受ける。メスがやってくると複数のオスがしがみつき、あっという間に団子状になる。止水性で産卵場所は、池や沼、湿地や水溜り。卵のうは、水中に倒れこんだ枯れ枝などに産み付けられる。そのため、積雪の重みで水中に倒れこんだ生木に産卵してしまうと、雪解けと同時に生木が立ち上がり、卵のうが空气中で乾燥死してしまうことがある。卵のうは乳白色のアケビ型で、日本産のサンショウウオでは唯一の形状である。卵数は 40～140 個で、標高が高いほど卵数は少なくなる。地域によっても異なるが、幼生は 7 月から秋までに変態をして上陸する。一部には、幼生のまま越冬して、翌年の夏ごろに変態する個体もいる。
生息場所	
食性	
生息環境への配慮事項	
引用文献：山溪ハンディ図鑑 9 日本のカエル + サンショウウオ類を改変	